

マーク・スペルマン ライブ・レクチャー



最新 7 作品を公開



AT THE TABLE LECTURE

MARC SPELMANN

< 日本語解説書 >

この DVD は、「AT THE TABLE LECTURE」シリーズの *MARC SPELMAN* 特集です。

相手役はイギリスのマジックディーラー *ALAKAZAM MAGIC* の *PETER NARDI* です。

以下はマジックの演技とやり方の部分に絞って要約したのですが、要約の中では、2 人の頭文字を取って、*M* と *P* で表示しています。

MARC SPELMAN は過去 20 以上にわたって、普通ではないマジシャン（パラノーマル・マジシャン）そしてマインドリーダーとして、彼の驚くべき演技によって、世界中の観客を魅惑してきました。

公的機関や大会社のイベントをはじめ、ありとあらゆるタイプのイベントに呼ばれて成功をおさめて来ました。

また 2004 年に発表した「*THE CHAPTERS OF MARC SPELMAN*」DVD セットはマジックの世界で高い評価を得て、彼のクリエイターとしての名声も高めました。

OSTERLIND や *BANACHEK* 、 *LARRY BECKER* 、 *KENTON KNEPPER* 等の大御所達も、彼の作品やプレゼンテーションを大いに評価しています。

では、*MARC SPELMAN* の世界をお楽しみください。

<内 容>

M&M

- 観客によってシャッフルされたデッキから、超記憶力でカードを探し出してしまいます。
- これが、驚くほどある簡単な方法で出来てしまうのは本当に驚きです。

Blagging It Impression

- 観客の書いたどんな名前、単語等も 100%正確にマインドリーディングで読み取ってしまいます。
- ノー・フィッシング、ノー・ゲッシング（かまをかけたり、巧妙に聞き出すことはしません）

One Question:

- シンプルで簡単ですがパワフルなマインドリーディング。
- たった一つ質問するだけで、選ばれたカードを当ててしまいます。

Hidden Chapter:

- たぶん今までの<カード at エニーナンバー>の中でも最も不可能と思えるものの一つです。
- 演者は一切カードには触れませんので大変フェアです。一般の人はもちろんマジシャンにも不思議でしょう。

OCAAN (Only Card At Any Number):

- キッカー・エンディングのある <ACAAN>

Mirror Mirror:

- 2デッキを使った<ACAAN>手順。演者はカードに触れることなく現象が起こります。

PPLH (Past, Present, Love, Hate):

- 観客の感情に働きかけるメンタリズム演技。
- いくつかの質問により、観客の経歴、歴史を明らかにしていきます。

~~~~~

## (はじめに—CARDS AND MENTALISM)

P: ハイ、皆さん、ALAKAZAM MAGIC の PETER NARDY です。この「AT THE TABLE LECTURE」によるこそ。今日のゲストは、私の長年の友人であり、素晴らしいメンタリストである MARC SPELMAN です！

M: この「AT THE TABLE」でレクチャー出来るのを、とても楽しみにしていました。では、まずは 1 組のデッキを使いますが、カードメンタリズムからです。

(MARC は 1 組のデッキを取り出します)

P: あなたはプレイングカードを使うと言いましたが、メンタリズムではカードを使うべきではないというメンタリストも多いと聞きます。その点をまず少し議論したいのです。私にはなぜだか判らないのですが、あなたは判りますか？

M: 私も判りません。ただ、プレイングカードがカードマジックを連想させたり、さらにプレイングカードをフラリッシュ的に扱ったりすると、きっと「ああ、お前はマジシャンか」とか「ギャンブラーか」と言われることになるでしょう。つまり、テクニックを使う者と見られ、メンタリズムではなくタネがあるマジックをやる者と見られるということかと思います。しかし、プレイングカードそれ自体は ESP カードなどより、多くの人にずっとなじみがあり判り易いものです。ESP カードのように 5 つの印ではなく、52 の印があると考える事も出来ます。プレイングカードをメンタリズムに使うことは問題なく、問題なのはその扱い方でしょう。きれいなスイングカットをやったり、あまりに鮮やかな手さばきは、観客にテクニシャンとのイメージを与え、無用の警戒心を生んでしまいます。実際、MAX MAVEN や CHAN CANASTA、DERREN BROWN などプレイングカードをメンタリズムに使っていますし、扱い方の問題です。

P: BERGLAS EFFECT (訳注: 伝説の ACAAN です) もそうですね。マインドリーダーがプレイングカードを使う代表例です。

M: その通りです。最終的には、心理的テクニックやマインドリーディングによって不思議なことを見た観客が、「これは本物だ」と感じる事が大切なのであり、使うものが何かではありません。URI GELLER も良い例です。彼もプレイングカードを使いましたが、人々は何も言いません。それは彼の演技が「本物」と思われたからです。

## **M&M:演技**

**M**：これは記憶力の実験です。私は自分の演技のことを決して「トリック」とは言いません。「実験」あるいは「デモンストレーション」という言葉を使います。「トリック」という言葉は何か「タネがある」事を連想させるからです。このルーティンは、いくつかの演目の後に、客がどうやっているのだろうと思っているところに演じて、メンタリストが何をやっているのかを説明するようなプレゼンテーションとなっています。

（MARC はデッキを PETER に渡します）

ではまずデッキをよくシャフルして、カードをミックスしてください。またカードのフェースを見て、カードがバラバラであることを確認してください・・・もう 1 回シャフルしますか？

（PETER がわざともう 1 回シャフルするので、MARC が「おいおい、本当にやるのかい」といった顔をして見せます。シャフルが済んだら、デッキを PETER から受け取ります）

カードをこのように拡げます・・・なるほど、よく混ぜられていますね・・・わかりました。

（デッキをそろえて右手に持ちます）

では、これからデッキを弾いて行くので、好きな所でストップをかけてください。あなたが本当にここだと思う所でストップをかけてください。

**P**：ストップ！

（MARC はストップのかかった所でデッキを開けてカードを見せます）

**M**：このカードで良いですか？変えますか？では、このカードを覚えてください。参考に 2 つの質問をさせてください。1 つ目ですが、あなたにはお気に入りのカードがありますか？・・・2 つ目の質問です。それは今のカードですか？・・・なるほど、有難うございました。ではまた、デッキをシャフルしてください。

（PETER がデッキをシャフルし、MARC に返します）

これから私は今のカードの状態を記憶に留めます・・・（PETER が何かを言おうとします）・・・シー、静かにしてください。

（MARC は真剣な顔をして、カードを流し見て行きます）

私が今カードを見たのは全体の順番を覚えるというよりも、何枚かのパート毎に他のカードとの繋がりや赤と黒の並びを記憶していったのです。

（MARC はまたデッキをそろえて、PETER に渡します）

では、あなたのカードを探して、それを少なくとも 10 枚以上離れた所に、反対側の端の方へ移動させて入れて欲しいのです。他のカードは動かさないでください。

（PETER がカードを移動させます）

有難うございます。さてこれからあなたのカードを見つけるために、私が何をやるかを説明したいのですが、それをするのが良いのかどうか、「時計のフェース」を例にとりましょう。どんな美しい時計でもその文字盤の下には精巧なメカニックが収められており、それらの動きのほうがより不思議な魅力があったりするものです。私がやることも、皆さんがどうやるかを知れば「なるほど」で終わってしまいますが、時計の美しいフェースと同じように、表面の現象だけを見ている方が楽しいかもしれません。この場合には、あなたのカードははじめ、ある 2 枚のカードの間にありましたが、今は別な場所に移されて、他の 2 枚のカードの間にはさまれています。そこで私がやることは、始めの状態のカードから消えたカードがないかをチェックし、どこか 2 枚の間に始めはなかったそのカードが入っている部分を探して見て行く訳です。では、少しカードを眺めさせてください・・・。

わかりました。デッキは誰も触れないようにポケットに入れておきます。

（MARC はデッキを上着のポケットにフェアに入れます）

はじめあなたのカードは、端から 12, 3 枚目にあるハートのジャックとクラブのキングの間にあったのですが、今は違う場所、それははじめから 23 枚はなれた場所で新しい 2 枚のカードにはさまれているようです。あなたのカードは・・・赤のカードですか？あっていますか？・・・これは、えーと、ハートのカードかな？・・・違うか、ちょっと待ってください。

（ここで MARC はポケットに手を入れて、カードを数えているかのゼスチャーの後に 1 枚のカードを抜き出します。客に手のひらを上に向けて出させ、その上にそのカードを裏向きで置きます）

今私の頭は少し混乱しています。ハートのカードだという気もするのですが、ここは逆にダイヤのカードだとしておきます・・・ダイヤの 3 ですか？正直に言ってください。

P：はい、そうです。

（PETER は持っているカードが、確かにダイヤの 3 であることを観客に示しますー拍手）

## **M&M:解説**

M：これはどのデッキでも出来ます。表面的にはメモリーテストのスタイルを取っていますが、実際には違います。また私はカメラの前で実演する時に失敗したくないので、難しい事はしません。どうしたら易しく出来るかをいつも考えています。CHAN CANASTA のような大変なことはしません。

（訳注：CHAN CANASTA は優れた記憶力を武器にしていたメンタリストです）

しかしプレゼンテーションとしては記憶力を前面に出して、自分には優れた記憶力があるとの確信を持っているかのように振る舞います。

P：メンタリズムの演技はそのプレゼンテーションがすべてであり、実際にやっていることはトリックとしては単純であることが多いですね。

M：その通りです。この場合もやっていることはカードを覚える事ではなく、  
—省略—

（MARC はカメラに向かって、デッキの客側と手前側を見せます）

—省略—

（MARC は実際に両手でジェスチャーをしてみせます）

—省略—

（PETER がシャフルします）

—省略—

（MARC はカードを拵げ、ハートのジャックとスペードのキングにはさまれた客のカード、クラブの 5 を見つけます）

—省略—

これでデッキのトップに客のカードが来ています。そしてデッキをポケットにしたら、「初めにハートのジャックとクラブのキングの間に・・・」とか「23 枚離れた所」等の話をします。

P：実質的には [REDACTED] にもうトリックの部分は終わっているから、[REDACTED]

「トップから～枚目にある」と言って、トップからその枚数目から現わしたりも出来るわけですね。

M：その通り、私の場合は何か変わったことをやりたくて、ポケットの中でカードの枚数を数えて客のカードを取り出すというプレゼンテーションにしたわけです。

P：LARRY BECKER もポケットに入れたデッキから客のカードを取り出して見せていますね。

M：以上が「M&M」です。

## DO MAGIC THAT FITS YOU

この後、MARC と PETER は、マジックとメンタリズムの違い、自分がどちらをやるべきかなどについて議論しています。—省略—

## Blagging It Impression: 演技

P：次は何ですか？

M：今度はよりメンタリズム色の強いものです。まず誰かの事を思ってもらいたいのですが、この部屋にいない人が良いです。ここにいるのは友人とか家族とか、皆知っている人ばかりですからね。その誰かの名前をこのカードに書いて、皆さんとカメラに向けて見せてください。いいですか。

(MARC はここで後ろ向きになり、PETER がカードに名前を書きます)

P：はっきりと大きく、ですね？

M：はい、その通りです。書いたらその紙を折って、ポケットに隠してください。

P：はい、隠しました。



M：一口に「誰か」と言ってもいろいろな人がいます。その人は家族の誰かですか？

P：いいえ。

M：違いますか。では、誰かあなたの仕事に関係している人ですか？

P：そうです。

M：その人は私も知っている人ですか？

P：おそらく知っているのではないのでしょうか？

（ここで MARC はカードとペンを取ります）

M：PETER、私の方を見てください。その名前の始めの文字を思い描いてください。口に出して言ったりしないでください。一年 12 か月の中に同じ文字で始まる月がありますか？心の中だけで答えてください・・・なるほど。今度はその初めの文字で始まる運動を思ってください・・・なるほど。今の 2 つのことから、私には 1 つの文字が読み取れるのです。

（MARC は一瞬考えた後に、カードに何かを書きます）

M：正直に答えてください。あなたの考えた運動は何ですか？

P：JUMP（飛び跳ねる）です。

（MARC がカードに書いたものを見せると、「JUMP」と書かれています）

M：次は 2 番目の文字ですが、今度はその文字で始まる食べ物を考えてくれますか・・・そうですか・・・

（また MARC はカードに何かを書きます）

M：そして、食べ物は・・・

P：APPLE（リンゴ）です。

（PETER の返事と同時に MARC がカードを見せると、「APPLE」と書かれています）

M：そしてあなたの思った名前は「JACK」ですね！

P：その通りです。素晴らしい！

## Blagging It Impression: 解説

(ここで、MARC が 1990 年代に HOUSE OF MAGIC というマジックショップに勤めていた頃の思い出話をします。その時に、普通のマジックしかしていなかった MARC が、ここで使う [REDACTED] に出会ったと語っています)

M: ここで使うインデックスカードの中に 1 枚の特別なものがあります。

—省略—

(MARC がギミックの上側のカードを開けて見せています)

(MARC は取り上げたカードの両サイドを両手を払って持つことで、完全にギミックの内部をカバーしています)

M: [REDACTED] 仕組みは判りましたか？

P: わかりました。素晴らしいです。

M: 後は「JACK」という得た知識をただ開示して見せるのではなく、如何に拡張してうまく使うかです。つまり、このケースでは最初の文字「J」と 2 番目の文字「A」が最も使われる可能性のある言葉に客を誘導しています。

一年のうちで頭文字が「J」である月、JUNE や JULY をまず思わせて、次に「J」で始まる運動で「JUMP」を連想させます。また食べ物では「A」が付くポピュラーなものと言えば 2 つあり、まず「APPLE」であり、次に「APRICOT (あんず)」です。「APPLE」だけで心配なら、「APRICOT」を書いてからそれを 2 本線で消して、その下に「APPLE」と書いておく手があります。消した方が客の思ったものなら、「APPLE とどちらか最後まで迷った」ということで、マインドリーディングは本当らしく見え、その効果は生きます。

(訳注: 「JACK」という最重要の情報は IMPRESSION によって得ているので、たとえ少々途中の過程で間違っても、最後は見事に「JACK」を客の心から読み取る事は出来るわけで、何も無いところから客の思っていることをフィッシングするより、ずっと楽で安心です)

とにかく今ある情報を活かすことです。例えば PETER、あなたも知っている私の友人のメラニーにデッキから QUEEN をフォースしたとしましょう。私には彼女の心に QUEEN があるのが判っているので、そのカードの数値の最後の文字を思わせて、その文字で始まる「月」を思わせます。それは「N」で始まる「NOVEMBER (11 月)」です。あるいは 3 番目の文字で始まる動物を思わ

せれば、まず「QUEEN」の「E」で「ELEPHANT（象）」となるでしょう。こうして、ただ QUEEN を当てるのではなく、マインドリーディングに最大限に利用するのです（訳注：つまり、客の心にあるものに依拠して、最も失敗のなさそうなものに誘導するわけです）。

（訳注：この後 MARC は、実際には客にカードをフォースしても、その事を他の客が忘れてしまったり、見ていなかった場合には、単に客が心に思ったものを当てる形となって、強力なマインドリーディングとなるという趣旨の話をしています。PETER も、このマジックの場合も、出来るだけ早く客に折ったカードをポケットに入れさせた方が良く、なぜなら遅れて来た客はその場面を見ていないので、PETER が単に心に 1 つの名前を思っただけと思うからだ、と話しています。その遅れて来た客には本当のマインドリーディングにしか見えないうわけですね）

## QUESTIONS

- 視聴者からの質問に答えています。（省略）

## ONE QUESTION: 演技

M：このルーティンは私が随分前に考えたものです。まずデッキをシャフルしてください・・・うまいですね。

（シャフルが済んだらデッキを MARC の前に置きます）

M：ではトップから何枚かのカードをカットして取って、私の手の上に置いてください・・・次に新しいトップカードを見て覚えてください。そして覚えたらまたトップに戻してください。

（PETER がそうします）

M：こちらのカードを表向きで掲げます。この中に覚えたカードのメイトカードはありますか？

P：あります。

M：ある？うーん・・・はい、ではまたデッキをシャフルしてください。

（PETER が再度デッキをシャフルします）

M：あなたのカードを心に思ってください。そのカードはシャフルされたデッキのどこかにあります。そして、そのメイトはこちらの中にあります。PETER、こちらを向いてください。

（ここで MARC は PETER の顔を見ながら、手に持ったカードを拵げながら 1 枚、また 2 枚と、バラバラとカードをテーブルに落として行きます。そして最後に 1 枚のカードが残ります）

M：あなたのカードは何でした？

P：スペードの 10 です。

（MARC が持った 1 枚のカードを見せると、確かにスペードの 10 のメイトカードであるクラブの 10 なのですー拍手）

M：これが私の「ONE QUESTION」です。

## **HIDDEN CHAPTER: 実演**

（訳注：ここで MARC は、「ONE QUESTION」と同じやり方をする「HIDDEN CHAPTER」も実演します）

M：では、どなたかもう 1 人お手伝いをお願いします・・・コーリー、有難うございます。あなたもデッキをシャフルしてくれますか？

（コーリーがデッキをシャフルして、MARC の前におきます）

M：PETER、1～52 の好きな数字を 1 つ心に思ってください。慌てずによく考えてください・・・いいですか？

（コーリーに向かい）ではあなたは好きなカードを 1 枚思ってください。それを変えても良いですよ。

（コーリーはカードを変えます）

M：いいですか？あなたの心には 1 枚のカードがありますね？

PETER、あなたの思った数字は何でしたか？

P：19 です。

M：ではトップから 18 枚をテーブルに配ってくれますか？

(PETER が 18 枚のカードを配ります)

M: 今 18 枚のカードを配りました。次が 19 枚目です。この中にあなたのカードのメイトカードがありますか？

(MARC は 18 枚のカードを表向きでテーブルにスプレッドします)

コーリー: いいえ。

M: 無い？あなたのカードは何でした？

コーリー: ハートの 4 です。

M: では次のカードを開けてみてください。私はカードに触りたくないのです。

(PETER が開けると、それは正しくハートの 4 なのです)

M: 有難うございました。席へお帰りくださいー拍手。

## **HIDDEN CHAPTER** 解説

M: さてこのやり方ですが、



デッキは自由にシャフルされるので、どのカードがどこにあるかは、誰にも判りません。

PETER が自由に数字を思います。デッキのトップからカードを配り、その数字の前で止めます。これがやり方です。

単純ですが、知らない人はびっくりします。今までに、かなりのお金を払うからやり方を教えて欲しいという話もいくつかありましたが、教えませんでした。

—省略—

## **ONE QUESTION:解説**

P：ところで、最初にやったマジックも基本的には同じことですね。

—省略—

（訳注：BORIS WILD は、「PURE TELEPATHY」というルーティンで客の思ったカードを当てる時に、カードを花びらが散るように優美に落としていくやり方をして、有名になりました）

以上が「ONE QUESTION」でした。（拍手）

## **OCAAN-ONLY CARD AT ANY NUMBER:演技**

M：これは「OCAAN」というマジックです。

P：「OCAAN」！

M：そうです、「OCAAN」です。さて、今日はこの部屋に 55 人ほどの人がいますが、どなたでも良いのですが・・・ではステラ、お手伝いをお願いします。その席にいてかまいません。今から私がこのデッキをあなたに渡したと想像してください。そしてそれを赤と黒のカードに分けるところを想像してください。そのうちの一方をジェイミーに上げるのですが、どちらをあげますか、赤ですか黒ですか？

ステラ：黒です。

M：ということはあなたの手元には赤いカード、ダイヤとハートが残りでしたね？今度はそれをダイヤとハートに分けて、一方を放り上げてください。どちらを放り上げますか？

ステラ：ハートです。

M：ではハートのカードを放り上げたところを想像してください。ハートのカードが宙に舞って雨のように落ちて来ます。そして地面に落ちると、あるものは表向きになり、あるものは裏向きになりましたが、面白いことに絵札と字札に分かれたのです。今裏向きになっているのは、絵札でしょうか、字札でしょうか？

ステラ：絵札です。

M：判りました。では PETER、全ての裏向きのカード、つまり絵札を取り上げ

てそろえ、ミックスしてからそのうちの 1 枚だけを表向きにするところを想像してください。表向きにしたのは何のカードですか？

P：ジャックです。

M：ジャック？ということはそのカードは、ハートのジャックとなります。もし初めに黒を選んでいたら、クラブかスペードのカードになっていました。次にコーリー、1～52 の好きな数を 1 つ言って欲しいのですが、まず 2 桁の数の最初の数字を言ってください。まず奇数か偶数かを選びましょう。どちらですか？

コーリー：偶数です。

M：偶数？では偶数を 1 つ言ってください。

コーリー：では、8 です。

M：カードは 52 枚しかないので、8 は無理です。何にします？

コーリー：2 です。

M：2？判りました。ではジェイミー、2 番目の数字を考えてください。偶数ですか奇数ですか？

ジェイミー：奇数です。

M：奇数の何にしましょう？

ジェイミー：1 です。

M：では数字が「21」と決まりました。私がロンドンのマジックサークル（訳注：有名なマジッククラブ）で演じる時はいつも、15、16、17 のどれかなのです。奇妙です。でも今日は 21 が選ばれました。

（ここで MARC はデッキのトップから 20 枚を配り出して、21 枚目のカードをその上に置きます）

M：これが 21 枚目のカードです。我々が選んだカードはハートのジャックでした・・・このカードがハートのジャックです。

（MARC が裏向きのカードを開けると、まさにハートのジャックなのです。（拍手）

でも、人によってはこのカードに仕掛けがあるのでは、と思います。例えば、全部が同じハートのジャックのカードではないかと疑う人もいます。全部同じカードならどの数字を言われても大丈夫ですね・・・でもこれ等のカードは・・・

この通り、すべてブランクのカードなのです。ただ 1 枚のこのカードだけがハートのジャックだったのです！

これが ONLY ONE CARD ということで、「OCAAN」というタイトルになりました。

## **OCAAN-ONLY CARD AT ANY NUMBER:解説**

M:INVISIBLE DECK というマジックがあり、大変優れたアイデアだと思っていますが、一般の人の中には、アンビシャスカードと同じくテクニックを使って行っているのではないかと考える人もいます。つまり、デッキをスプレッドして、どこかで密かに目的のカードをひっくり返しているのではないかというわけです。BRAINWAVE DECK も同じです。

その点、このルーティンは 1 枚のカードの他はブランクカードであり、その結果が一目瞭然であり、デッキの扱いもフェアです。

まずセットですが、

、準備完了です。デッキを裏向きにします。

(MARC は実際にセットをして見せます)

—省略—

## **HOW TO BECOME A MENTALIST**

(訳注:この後、「どうしたらメンタリストになれるか」という客の質問に答えて MARC が、自分が若い頃は DAVENPORT MAGIC からいろいろな道具を買ってマジックをしていたこと、STREET MAGICIAN としても腕が良かったことなどの話をしています。自分でもメンタリズムが好きで演技はしていたが、転機になったのは DERREN BROWN の演技を見た時で、それに感銘を受け彼と親交を重ねる中で本格的メンタリストの道を歩みました。そしてメンタリストになりたいなら、自分が、相手が心を読んでもらいたいと思う人間かどうか



を考えるとっています。つまり、自分がメンタリズムの演技に向いているかどうか、鏡の前でじっくり自分を見つめてからでも遅くないという趣旨の話をしています。)

## **(MIRROR, MIRROR):演技**

**M:** ステラ、こちらに来て手伝ってくれますか・・・(拍手)・・・どうも有難う。ここに2組のカードがあります。こちらの緑色のデッキは・・・このようにカードを拵げると、カードがよく混ざっていることが判ると思います。

(MARC はさらに何回かそのデッキをシャフルしてケースにしまいます)

**M:** こちらに BICYCLE の青裏のデッキがあります・・・こちらもこのようにカードはすべて異なるものです。良いですか？

**ステラ:** はい。

**M:** (デッキをシャフルしてケースにしまいながら) では、緑のデッキか、青のデッキかを選んでください。

**ステラ:** では青がよいです。

**M:** では青のカードをケースから出して持ってください。デッキをシャフルしたので、始め見たカードの並びとは変わっています。毎日10回一生涯にわたってデッキをシャフルしても、元の並びになる事はないと言われています。このデッキもカードの並びは判りません。では、私は後ろを向くので、ステラ、私の代わりに PETER を相手にしてください。

PETER,私が後ろを向いたら、デッキのトップから何枚かのカードをまとめてカットして取り、そのボトムカードを覚えて、取ったパケットは胸に当てておいてください。取るカードは少なくとも多くてもかまいません。自由に取ってください。

(PETER がトップからカードを取ります)

**M:** では PETER、あなたのカードがどこにあるか判らなくするために、カードをシャフルしてください。ステラ、あなたも持っているカードをシャフルしてくれますか。そして持っているカードの枚数を心の中で数えてください。

(PETER がシャフルし、ステラが数えます)

M：今ステラの心には 1 つの数字があり、PETER の心には 1 枚のカードがあります。ではカードを 1 つのデッキにして、ステラ、シャフルしてくれますか？これで全く自由に選ばれたカードがどこに行ったか、まったく判らなくなりました。私はカードに手を触れていませんし、まったくフェアな立場です。それでも人によっては、私が何とか PETER のカードを知る方法があるのではないかと疑います。そこで、私はこちらの緑のデッキを使おうと思います。私は一切カードに触りたくないので、ステラ、緑のデッキをケースから出してくれますか？それは始めによくシャフルされたデッキです。そのどこかに PETER が心に思っているカードがあるはずです。

では、ステラ、緑のデッキのトップから、あなたの心にある数字から 1 枚少なく、カードを裏向きで 1 枚ずつ配ってくれますか？

（ステラがカードを配ります）

M：私がステラのカードを配る音を聞いていても大丈夫です。私には何も変えられませんので・・・さて、始めにデッキがシャフルされ、好きな枚数のカードが取られてカードが覚えられ、元に戻してまたシャフルされました。その過程でステラはランダムな数字を思いました。そしてその数字の枚数目のカードが、その一番上のカードです。PETER、あなたの思っているカードは何ですか？

P：ハートの 10 です。

M：ステラ、そのカードを開けてみてください。

（ステラがデッキのトップカードを開けると、ハートの 10 ですー拍手）

M：ステラ、どうも有難うございました。

## **(MIRROR, MIRROR):解説**

M：これは私が友人のマジシャン TITANAS と 1 組のデッキを使う ACAAN について話している時に、彼が 2 組のデッキを使うことを思いつき、出来たものです。

—省略—

## (MARKED CARD SYSTEM)

M：次はカードのマーキングについて話したいと思います。こちらに 2 枚のカードを用意しました。

(MARC は 2 枚のジャンボカードを取り出して、客を笑わせます)

—省略—

## PPLH (Past, Present, Love, Hate):演技

P：次は何ですか？

M：またどなたかにお手伝いいただきたいのですが・・・ジェイミー、お願い出来ますか？・・・

有難うございます。さて、ジェイミー、これから旅に出て欲しいのですが、家族と一緒にに行くような旅ではないので、すいません。あなたの人生の思い出、記憶をたどる旅に出て欲しいのです。良い思い出も、あまり良くない思い出もあるでしょう。そして、そこで出会った人を思い浮かべてください。名前を言わないでください。ある人はあまり良い関係ではなかったかもしれませんが、ある人は中学校で良い友達だったのに、それ以来会う事がなかった人かもしれません。とにかくまず誰かを思い描いてください・・・いいですか？思い出したか？

ジェイミー：はい。

M：ではペンがあるので、この私の名刺にその人の名前を書いてください。済んだらテーブルに伏せておいてください。私は後ろを向いていますし、ペンで書く音を聞いても何も判りません。その人の名前を書いてくれましたね。では、今度は記憶の中を進んで現在にまで旅してください。

現在に到着しました。今のあなたは仕事もうまくってしっかりとした生活を送っており、言葉を交わす友達も多い事と思います。その中でもあなたにとって、前向きなエネルギーを与えてくれるような良い人物の名前を、この名刺に書いてください。済んだら書いた名刺はテーブルの名刺の上に重ねてください。

もう 1 枚名刺を取って、今度はあなたが人生において愛を感じる人の名前を書

いてください。親愛の情もあるでしょうし、恋愛感情もあると思います。いずれにせよ、「愛」は本当に素晴らしい感情です。あなたがこれと思う人の名前を書いてください。

では、今度は逆にあなたが「負」の感情を持つ人、どうしても良い感情を持っていない人が、あなたを取り巻く人、友人、親族等の中に仮にいたら、その人の名前を、最後の名刺に書いてください……済みましたか？ああ、それと PETER、あなたも横から名前を見たかもしれませんが、これはジェイミーとの 2 人だけのデモンストレーションなので、何も言わないでくださいね。では、ペンをいただきます。

次にその 4 枚の名刺をよくミックスして、どれがどれだか判らなくしてください。

(ジェイミーは名刺を混ぜます)

M：済んだら名刺をください。これから最初の名刺の名前を見せますが、その名前を見てどのタイプの人か、すぐ判るような反応をしないでください。例えば、その名前を見て怒り出すとかですね。

では行きますよ。最初の名前は「アラン」でした。「アラン」に心を集中してください。いいですか？

(ここで MARC は名刺とジェイミーの顔を見比べて、しばし考えるふりをします)

M：この名前からは特に前向きの感情は感じられません。おそらく大分前からコンタクトは無いのではないのでしょうか？過ぎ去って行った人の 1 人ではないのでしょうか？この人は過去にいた人ですね？どうですか？

ジェイミー：その通りです。

M：では次の名刺ですが、まずあなたがもう一度その名前を見てから、私に名前を見せてください……名前は「ルーディ」です。この名前からは過去のイメージがしません。あなたのリアクションも先ほどの過去の人とは違っていました。もっと最近に登場した人、つまり現在にいる人ですね。

ジェイミー：そうです。

M：どういう関係ですか？

ジェイミー：私の親友です。彼は昨日結婚しました。

M：それはおめでとう、ルーディ！さて、次の名刺を取って名前を見てください。

今度は私を見てください・・・なるほど。名刺を見せてください。「ロージー」ですか・・・ではロージーを思い浮かべて、彼女をどう思っているかを考えてください。

（ここで MRAC はジェイミーの胸に触り、何かを感じ取るジェスチャーをします）

M：判りました。何かとても良い、強い感情を感じました・・・あなたはきっと、この名前の持ち主を愛していると思います。ところでロージーと言うのは誰ですか？

ジェイミー：うちの犬です。

M：人でなく犬ですか。ペットですね。私も 1 匹飼っていますよ。「ククンディ」(?) です（笑い）。

さて、これで 1 枚の名刺が残りました。このデモンストレーションの流れで、この人はあなたとあまり相性の良くない人だと判ります。実際は面白い人のようですが、それはさておき、私は知らない人ですね？では、その人の SIRNAME（姓）を知っていますか？

ジェイミー：はい。ゲストです。

M：最後にその人に会ったのは何時ですか？だいたい良いですよ。

ジェイミー：去年の夏頃でしょうか。

M：去年の夏、すると 2016 年ですね？どこで会いましたか？

ジェイミー：ヘイズ高校です。

（訳注：DVD の始めの方で MARC が、ジェイミーが学校で講義をしていると紹介している部分があります）

M：どこにある高校ですか？

ジェイミー：ヘイズです。

M：判りました。姓がゲストで、2016 年頃ヘイズにあるヘイズ高校であったのが最後という人ですね・・・えー、彼の名前は・・・ここに書きました。では、手を出してください。私が操作出来ないようにあなたに持ってもらいます。

（MARC はジェイミーに自分の名刺を渡し、テーブルから最後の名刺を取り上げて、名前が書かれた面を自分に向けて持ちます）

M：ああ、まったく一緒というわけではありませんでした。でも発音は一緒だ

と思います。では、私がその名前を読みますので、続いてあなたも私の書いた名前を読んでください・・・あなたの書いた名前は「NATHON」でした。

（ジェイミーが MARC の書いた名刺を見せると、「NATHAN」と書いてあり、「ON」と「AN」の違いだけで、ほぼ一致した結果となります）

M：去年ヘイズ高校で最後に会った NATHON ゲストでした。ところで、皆、彼の名前を書いたこの名刺をどうするのかと期待して待っていますが・・・

ジェイミー：好きにしてください。

M：NATHON め！（MARC は NATHON の名前の書かれた名刺を、破り捨てて見せますー(笑)）以上です。ジェイミー、どうも有難う。

## **PPLH (Past, Present, Love, Hate) 解説**

M：このルーティンは LARRY BECKER の「書いたものを見るズルいやり方」をするルーティンにヒントを得ていますが、同様のルーティンは MAX MAVEN の本「PRISM」にもあります。私が気に入っているのは、何の道具も要らずにたった 4 枚のカードだけでステージでも出来る点です。4 枚のカードに文字を書いて行う点は 2 人のやり方と同じですが、ただ私の場合は、

良いやり方だと思っています。

### —省略—

そして最後は今までのようにすぐに関示に進むのではなく、いろいろな個別の要素を聞き出します。この例では、その人物の姓や最後に会った時、高校の名前などですが、それは全くのアドリブです。実際にはただ質問しているだけですが、個別の情報が明らかになっていくので、客の心の中に分け入ったかのような感じを観客に与えることが出来ます。

こうして最後の関示をドレスアップするわけです。

以上が、「PAST、PRESENT、LOVE、HATE（過去・現在・好き・嫌い）」です。

~~~~~

P：MARC、今日はこの「AT THE TABLE LECTURE」に参加してくれて、本当に有難う。

M：こちらこそ、有難う。ただ、メンタリストとして私の主な舞台はテーブルホッピングではなく、ステージやパーラーなので、こうしたクローズアップはうまく出来たか、どうだったでしょうか。

P：あなたのメンタリズムの演技はとても参考になったし、我々もいろいろ話をしましたが、その中にもきっとメンタリストに有益な話があったと思います。MARC,本当に有難うございました。では皆さん、またお会いしましょう！（拍手）

—以上—

AT THE TABLE LECTURE

MARC SPELMANN

（了）

翻訳： 平賀 義達

編集・発行：（有）フェザータッチ MAGIC

■ この日本語解説書は、あくまでも DVD「AT THE TABLE LECTURE : MARC SPELMANN」をご購入いただいた方へのサービス原稿となります。日本語解説書単体での販売はできません。また内容についてはフェザータッチ MAGIC が独自に翻訳編集したものです。

★ この日本語版の全てのコンテンツ(情報・資料・画像等)の著作権は、フェザータッチMAGICが所有します。一部、全部を問わず、無断でのコピーはもちろん、いかなる手段での転記、転載（電子メールを含む）販売等の二次使用は一切禁止します。

日本語版解説書©2019 FTM: Feather Touch Magic Inc.

販売：（有）フェザータッチ MAGIC

www.FTMagic.JP



フェイスブック：www.facebook.com/ftmagic

(新製品情報、特別セール情報等はこちら Facebook でチェック)



〒520-0528 滋賀県大津市和辻高城 334-17

電話：090-3942-0320

FAX：0120-166-019（FAX 専用フリーダイヤル）

メール：FT@FTMagic.JP